

一般会計予算の主な内容

安心して子育てできる

まちをめざす

昨年4月に施行した「南丹市子育て支援条例」を基に家庭や地域、また各種団体など、市民の皆さんと行政などが協力し合って新たな事業の一步を踏み出しました(①・②・③)。核家族化や、隣近所の関係の希薄化などによる子育て力の低下、また子育てに不安や悩みを持つ親が増加するなど、子育て環境が変化してきていますが、条例における各種施策の推進

により、地域全体で子育てを支援していく気運を高めます。子育て不安などを解消する取り組みを進め、多様な支援の一体的な推進を図っていきます。

地域での子育て支援として、ファミリーサポート事業(④)を継続し、地域の子育て支援や福祉の増進、児童福祉の向上を図る予定です。また、子育てすこやかセンター事業(⑤)も、子育て支援、相談業務を充実し、八木、日吉、美山地域での巡回事業も展開します。さらに、核家族化の進行や共働き家庭の増加の中で、子どもたちが健やかに育つために低学年の児童を対象に、放課後児童健全育成事業(⑥)を実施しており、平成22年度からは土曜日も開設しています。いっそうの住民ニーズに対応できる体制づくりを推進します。

医・食・住の充実と高齢者や障がいのある人の自立を支援する

安心して子どもを産み育てられる環境づくりのため、妊婦健康診査事業(⑦)の実施や、増加傾向にある女性特有の乳がんや子宮がんの早期発見と受診率の向上を目



▲外出支援サービスを利用して病院へ通院

指すため、女性特有のがん検診(⑧)の拡充を図ります。また、新型インフルエンザの予防接種を推奨するため、低所得者を対象に、新型インフルエンザワクチン接種費用の免除(⑨)を行うなど、市民の健康づくりへの支援に努めます。

安心と支え合いの仕組みづくりとして、一般の交通機関を利用することが困難な高齢者や心身に障がいがある利用者宅と福祉サービスを提供する場所・医療機関との移動手段として活用いただける外出支援サービス事業(⑩)や、高齢化の進展に伴う一人暮らし世帯などの増加を踏まえ、一人暮らし生活を支援することで、地域で

〈予算の主な事業〉

※抜粋

① 子宝祝金事業 1, 115万円

次代を担う子どもの出産を祝福し、一人当たり5万円を支給

② 子育て手当支給事業

4, 238万円

子どもの健やかな成長を支援するため、月額で第1子2千円、第2子3千円、第3子以上5千円を満5歳まで支給

③ 入学祝金支給事業

2, 095万円

子どもが小学校入学時に3万円、中学校入学時に4万円を支給

④ ファミリーサポート事業

779万円

子どもを「預けたい人」と「預かる人」のネットワークを作り地域で子育てを支援

⑤ 子育てすこやかセンター管理運営費

111万円

⑥ 放課後児童健全育成事業

4, 514万円

⑦ 妊婦健康診査事業

2, 155万円

▶土曜日開設の様子(園部たんぼ放課後児童クラブ)

